

# いよいよ後期盛年だ

森永 鉄美（2組）



朝早くから電話が呼んでいる。

時計を見る。まだ六時ちょっとだ。朝っぱらから誰だ。少々不機嫌なまま受話器をとります。

「七班のAーさんの家、様子がおかしい。いつもは消えている風呂場の電灯が、昨夜から灯いたままで今も灯いている」と、町内のMさんからの電話でした。

我が町内の自治会の構成、百二十戸程です。ニュータウンの呼称は、この団地が出来た頃はふさわしい名称でした。出来てから四十年近くも経つと、今やオールドタウン、高齢者、一人暮らしが多くなり、何かと事件・事故が多いのです。

町内自治会のお世話役を引き受けて五年ほどになりますが、この間に二件の孤独死事件がありました。今朝の電話もそれかもとすぐ考えました。

Aーさんの家へ行き、玄関のチャイムを鳴らします。反応なし。電話呼び出しもしてみます。全く反応なし。いよいよ三回目かと緊張が高まります。

民生委員のTさんにも来てもらいました。近くの交番に行き、警官立ち会いのもと家に入ることにしました。合カギの場所はAーさんから「何かあったらここにありますが」と聞いていました。

警官立ち会いで念のためもう一度チャイムし、電話もします。やはり応答なしです。警察の人、だんだん緊張です。家のまわりを調べ、施錠の状況も確認します。

中へ入ることになり合鍵を使います。あちこちさわるなど注意を受けます。Aーさんのご主人は産婦人科のお医者さんでした。亡くなってもう二十年近くなりますが、一人暮らしの生活になってもう随分なります。たしか八十年代後半の高齢者です。

家は広い、先ず問題の風呂場を確認します。我々には、あちこち触るな、動き回るなど待機の指示が来ています。警察の方、不思議そうな顔で出てきました。風呂場はきれいこ片付いている。

では、他の部屋で倒れているのでは、ということでも室内を探すことになりました。居間は？寝室は？

女性の寝室を覗く・・・でも九十才近くのはあちゃんだからいいか・・・居ましたね、ベッドの中に。この間、警察の方は署の方と常時無線で連絡をとっています。

生きてる？死んでる？なんか呼吸はしているようです。民生委員のTさんと相談し、このまま寝かしておいて、起きるのを確認して交番へ報告と言う話になったのですが、警察はそういうわけには行かないですね、生存確認の指示がきます。急に起こして警察の姿・・・びっくりして心臓麻痺したらどうする・・・で、私だけが寝室に入り、やさしく起こすことになりました。

Aーさん、Aーさん、と徐々に声を大きくして起きるのを待ちます。しばらくして目をあけました。きょとんとして、・・・の表情です。

民生委員、おまわりさんにも中へ入ってもらって、Aーさんへ事の次第を説明しました。起こした私を見て、息子と思いい、なんで帰ってきたのか、と思ったそつで、若く見てもらって感謝でした。

風呂場の電灯は単なる消し忘れて、チャイムと電話への無反応は、薬を飲んで寝た、グッスリ寝てしまったので聞かえなかったのでしょうか、ということで、笑話で終わってほっとしたことでした。

我々もいよいよ高齢者の仲間入りです。一人暮らしの方も増えてきています。町内のお世話をしながら、自分にもこのようなことは起こりえることだと気付かされました。

いま、八期会のお世話をしていただく役員の方々のおかげで、皆様にお会いする機会をいただき、近況を知ることが出来ます。まことに有り難いことです。八期会が、未長く続くことを願っております。

（平成二十四年十二月十日 記）

854-0077 静岡県静岡市白旗町六・三十一 電話 0667-250-3349

[mamei2suwamori991@yahoo.co.jp](mailto:mamei2suwamori991@yahoo.co.jp) 携帯 060-6405-4404

